

科目名 現代社会論	
担当教員	開講形態：講義 単位数：2 履修年次：3年次～
授業の概要	戦後日本社会の急激な変容ぶりは、戦後日本人の意識構造にも決定的な影響を及ぼした。本講義では、そのなかで特に戦争観や平和観の変容に焦点を当てて、考察を加えていく。それは同時に戦後日本人の政治観や国家観をも問う試みとしてもある。そのことを通して、最終的には国家と人間、市民社会と市民の相互関係の理想的かつ合理的な関係を模索していきたい。
授業の目標	(1)戦争観や平和観が何を媒介として形成されていくか、その認識を深める。 (2)国家や社会を対象化する手法を獲得していく。 (3)自らの言葉で戦争・平和・国家・社会を語れる素養を身につける。
観点別目標	<p><b>【知識・理解の観点】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦争や平和の歴史事実を再確認し、論証することができる。</li> <li>2. 本テーマで主体的な議論を展開できる。</li> <li>3. 本テーマについて、独自性ある小論文を作成できる。</li> </ol> <p><b>【思考・判断の観点】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦争や平和は国家による恣意的な判断の結果ばかりではなく、民衆の意識が介在していることを指摘できる。</li> <li>2. 戦争や平和の内実を決定するものは、民衆自身であることが自覚できる。</li> </ol> <p><b>【関心・意欲・態度の観点】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らの社会的立場を客観的に把握する手段として、現代史への関心と社会事象への興味を持つ。</li> <li>2. 21世紀が再び戦争の時代でもあるとする認識を持つ。</li> <li>3. 既存の歴史認識や社会認識の有りように疑問を持つ。</li> </ol> <p><b>【技能・表現の観点】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語や文章を媒体として、他者とコミュニケーションを取ることができる。</li> </ol>
授業計画の概要	戦後日本に表出した戦争観や平和観の変容を具体的に例示する。それを踏まえて、より多くの文献・資料を活用しながら、そこに見出される日本人の意識構造を浮き彫りにしていく。テキストは、——(岩波書店、2007年刊)など。
<b>授業計画</b>	
週	内容
第1回	日本人の戦争観の変容(1) 1)戦争観の転換を迫る者 2)日本人の戦争観の実際 3)時代と戦争観の変容
第2回	日本人の戦争観の変容(2) 4)戦争観の形成と政治的文化的状況 5)戦争認識を阻害するもの
第3回	時代の変容と戦争認識の変容 1)1950年代の特色 2)風化の政治的時代的背景と原因
第4回	アジア太平洋戦争の総括をめぐって 1)「太平洋戦争の呼称をめぐって 2)解放戦争論の登場
第5回	戦後の戦争と日本人 1)朝鮮戦争論 2)ベトナム戦争論
第6回	日本再軍備をめぐる国論の動き 1)戦争アレルギーと軍隊アレルギー 2)日米安保の受容過程
第7回	戦争責任論の登場とアジア民衆からの批判 1)戦争責任論 2)過去の克服
第8回	軍隊慰安婦問題への反応 1)いま、なぜ軍隊慰安婦問題か 2)アジア民衆の対日批判

第9回	教科書問題に示された日本の戦争・平和観(1) 1)教科書問題 2)歴史修正主義グループの意味
第10回	教科書問題に示された日本の戦争・平和観(2) 3)歴史修正主義批判の展開 4)教科書問題への世論の動き
第11回	湾岸戦争とイラク戦争時における日本人の戦争観(1) 1)戦後日本人の戦争間の変容から現代の戦争への視点を探る
第12回	湾岸戦争とイラク戦争時における戦争観(2) 2)現代の戦争観を通して保守化・右傾化する日本人の政治歴史意識の実際を検証する
第13回	総括と補論(1) 1)歴史は乗り越えられないのか～歴史の克服と清算の問題に触れて～
第14回	総括と補論(2) 2)歴史創造の主体と客体という問題
第15回	総括と補論(3) 3)社会科学は何処まで政治から自由であるのか
成績評価方法	何よりも、自らの言葉と論理で課題の説明と展開を説得的に論述できる能力を身につけているかを重視します。そこでは、講義の理解と事前学習によって蓄積された知識や情報を消化する技量が問われます。ミニレポート(20%)、中間レポート(30%)、定期試験(中間・期末)50%
前提科目	日本史A 日本史B 東洋史 世界史
発展科目	社会思想史 国際社会論
テキスト	著者名『書名』出版社名、出版年。
指定図書 (課題図書)	著者名『書名』出版社名、出版年。 著者名『書名』出版社名、出版年。 著者名『書名』出版社名、出版年。
参考書	著者名『書名』出版社名、出版年。 著者名『書名』出版社名、出版年。 著者名『書名』出版社名、出版年。
受講上の注意 (教員からの メッセージ)	
障害のある学 生への対応	
キーワード	戦争認識 平和認識 歴史認識 意識変容